都道府県名	広島県
都道府県番号	３４

（① □ ② ● ③ □）

Ⅰ．学校の概要

東広島市立東志和小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1		6	
児童数	１３	２４	１２	１９	２３	１５		１０６	１５

東広島市立西志和小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	2	2	2	１０	２１
児童数	３５	３２	３６	３６	４９	５２	5	２４５	

東広島市立志和堀小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	
児童数	8	１１	１１	１３	6	１２	0		１０

東広島市立志和中学校						
	1年	2　年	3　年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	１０	
生徒数	９０	８６	８９	3	２６８	２２

Ⅱ．実践研究の内容

（ｉ）　小学校間連携

①　校内研修での連携

地域全体の学力向上を図るためには，小中学校の連携はもとより，小学校３校の連携が重要になる。連携内容は教育活動全般にわたる必要があるが，１年次は校内研修の効果に重点を置いた。各小学校の国語科，算数科等の授業研究に計画的に参加し，研修し合った。次のものは他校にも呼びかけたものである。

【西志和小学校】

6月２５日	3年	国語科	「本の帯をつくろう」 少人数
6月２７日	2年	算数科	「長さ（1）」 習熟度別
7月　2日	障害児学級	生活単元	「七夕まつりをしよう」 個別
7月　4日	6年	算数科	「体積」 習熟度別
１０月　1日	4年	算数科	「式と計算」 習熟度別
１０月２１日	1年	国語科	おしえてあげよう「わくわくどうぶつたんけん」 習熟度別
１０月２４日	5年	国語科	語の構成から熟語の意味を考えよう　少人数
１１月２２日	6年	図工科	わたしのイメージ「もうひとつのふしぎな世界」 一斉
１２月　3日	5年	算数科	「分数」 習熟度別

【志和堀小学校】

7月　4日	2年	国語科	「じゅんじょに気をつけて」一斉
9月２５日	3年	算数科	「わり算」　ＴＴ
	6年	算数科	「単位量あたりの大きさ」　ＴＴ
１１月6日	1年	算数科	「くりさがりのあるひき算」ＴＴ
１１月２１日	4年	国語科	「クイズ（物の名）」　ＴＴ
１２月　3日	5年	国語科	「いろいろな方法で調べて伝えよう・森林の贈り物」 一斉

【東志和小学校】

6月　4日	3年	算数科	「かけ算（2）」　一斉
7月　4日	6年	算数科	「体積」　一斉
9月２５日	6年	国語科	「ニュース番組を作ろう」　ＴＴ
１０月１１日	4年	算数科	「小数」　ＴＴ
１０月１６日	2年	算数科	「かけ算（1）」　ＴＴ
１１月　8日	5年	算数科	「図形の面積」　習熟度別
１１月２７日	1年	算数科	「どちらがながい」　一斉
8月19,20日	夏季合宿研修会		

② その他の小学校連携

志和地域では，平成１２年度から，３学期に３小学校合同の綱引き大会（６年生対象）を実施している。そのねらいは，６年生同士の交流とともに中学校進学前の仲間づくりでもある。

（ii） 小中連携

① 連携部会（学びのプロジェクトＸ・志和）

ア 専門A部会（調査分析グループ）

児童生徒の学力の実態，学習意欲・習慣等の実態，生活の実態，保護者の意識の実態，等について調査・分析を行った。

イ 専門B部会（授業改善グループ）

A部会の研究内容と連動し，主として国語科，算数・数学科における授業の工夫改善，教材の開発等について情報交換・研究協議を行った。

期　日・曜日	時　　間	内　　容
8月３０日（金）	１５：００～	・研究組織，構想について
9月３０日（月）	１５：３０～	・ＡＢ部会の研究計画
１０月２２日（火）	１６：００～	・実態調査実施内容検討　・授業改善の視点検討
１１月２５日（月）	１５：３０～	・実態調査集約その他　・視点に基づく実践交流
１２月　9日（月）	１５：３０～	・紀要の骨子と意欲調査内容　・実践交流
１２月２５日（水）	９：００～	・意欲調査内容集約　・紀要内容について
1月１４日（火）	１５：３０～	・紀要内容の検討　・座談会
1月１７日（金）	１５：３０～	・紀要内容の検討
1月３０日（木）	１５：００～	・町内教職員全体研修「国語科,算数・数学科の指導のあり方」
2月１９日（水）	１３：００～	・１年次の中間研究発表(教務主任研)

② 小中学校の研究部を通じての連携（平成１３年度も含む）

小学校の授業研究に中学校教員がＴ．Ｔで参加し，研修を深めた。

9月２６日	5年	国語科	「季節のことば」
１０月２６日	6年	総合学習	「世界に発信！わたしたちの東志和」
3月１５日	6年	英語科	「ローマ字に慣れ親しもう」
	6年	算数科	「数学に親しもう」

③ 志和町教育連絡協議会（町教連）を通じての連携

最低各学期１回は，次の部会を開催し取組みの連絡協議を行ってきた。

〇人権教育部会　〇総合的な学習部会　〇生徒指導部会　〇保健・給食部会

④ 教育活動全般を通じて

学校行事等を通じて連携を強め，児童生徒にとって小学校から中学校への接続が円滑になるよう努めてきた。

ア 体育大会に来年度入学生（小学校６年生）の競技を実施する。

イ ３小学校合同の綱引き大会（６年生対象）へ中学校教員も参加する。

ウ 入学説明会を中学校で行い，内容を充実する。

エ 小学校の運動会や学芸発表会等へ中学生が参加しやすい体制をつくった。

西志和秋祭，ホタル祭，東志和区民祭等

（iii）　保育所・小学校連携（東志和小学校）

①　ねらい

東志和小学校と東志和保育園は，隣接した場所にあり，新入学児童のほとんどが東志和保育園の卒園児という状況にある。幼児期から児童期への発達特性をきちんととらえ，お互いの保育・教育内容について理解し合い連携を図っていく。保育園でどのような生活体験をしてきているかを具体的に把握した上で，学校生活の指導・支援を仕組んでいく。

②　職員の連携

・　夏期休業中に学校側から保育園の一日の様子を参観させていただいた。子どもたちの実態・保育士の対応などを実際に見ることができた。保育園の保育方針や願いなどについて伺うこともできた。
・　地域参観日などの時，保育園側から学校の授業の様子を参観していただき，卒園児の成長ぶりを見てもらった。
・　次年度入学予定児について，配慮を要する児童を中心に連携をとる。

③　園児・児童の交流

ア　行事

・　秋季大運動会は，学校・保育園・区民が共催で行っている。合同練習や当日の応援で交流がある。
・　学校で行われる区民まつりに，保育園も参加される。

イ　日常的に

・　落ち葉拾いやうさぎ・ちゃぼとのふれあいなどで，校庭に訪れることがあり，児童と接することも多い。

ウ　生活科

・　２年生では，これまでの成長を振り返る学習の中で，保育園を訪れ，保育園の生活を思い出したり先生の話を聞いたりする活動をしている。
・　１年生は，次年度入学児を招待し，学校を案内したり一緒に遊んだりする活動を行っている。保育園児にとっては小学校生活を少し体験することができるメリットがあり，１年生にとっては異年令児とのふれあいになると同時に，一緒に生活科を学習していく仲間作りの第一歩にもなる。

④　交流の成果と課題

ア　把握した保育園の実態

・　朝の迎え入れの際，保護者との引き継ぎをしっかりしている。
・　言葉として表現できないところを表情や態度などからつかもうとしている。
・　子どもの作品について細かな記録をとって，作品展などに生かしている。
・　できるだけ偏食をなくせるように励ましながら食べさせている。
・　縦割り集団の活動により，自然に年下の子をいたわる気持ちが育っている。

イ　これからの方向

・　保育園で身につけている基本的な生活習慣を大切にしつつ入学時の指導を行っていきたい。
・　園児と児童の交流として，５年生も取り組んでいきたい。次年度最高学年となる自覚を高め，新１年生との顔合わせにもなる。

本年度の連携を通して，保育園と学校双方に共通する考え方や指導が認められた。今後も連携をさらに密にしていかなければならない。

(iv)　地域への取組み

保護者･地域に対して学力向上事業に対する理解と支援を得るため，次のような方法で広報活動に取り組んだ。

〇地域へ新聞折り込み広告で知らせた。
〇学校だより，学年通信，学級通信等に記載した。
〇学校教育計画説明会やＰＴＡ総会で説明し，支援を呼びかけた。
〇ＰＴＡ役員会等で取組みの状況を説明。
〇保護者会で児童生徒の実態調査の結果をもとに，生活の改善を求めた。

(ｖ)　平成１４年度（１年次）の成果と課題

①　成果

ア　研究協議を深める中で，志和町内小中学校の教育の現状に対する理解が深まり，共通のねらい達成のために取り組もうとする気運が高まった。

イ　児童・生徒，保護者の実態調査・分析に取り組むことで町全体の課題がつかめた。また，課題解決のためには小中連携した取組みが不可欠であるという認識が形成されつつある。

ウ　習熟度別学習や３Ｒｓ‘についての反復学習など，学力向上のための個に応じた指導法や望ましい学習習慣の育成のための具体的な取組みが展開でき，各学校の実態にあわせて協同できる見通しができた。

エ　この事業指定の意義・ねらい等について，機会をとらえ，地域・保護者への広報活動に取り組んだ。その結果，事業に対する理解が得られつつある。

②　課題

ア　原則として月１回の部会を持ったが，その協議・決定内容を他の教職員へいかに早く周知するかが今後の鍵となる。その中で，事業の意義，計画，学力をめぐる実態と課題，取組み等について，各校で同じように共通認識を図ること。

ウ　１年次は実態を把握することや授業改善工夫の方向性を探ることに時間を費やしてきた。２年次は更に小中学校の連携を強め，指導内容の検討・授業の工夫改善等に取り組むとともに，具体的な効果を測定していくこと。

エ　１年次に実施した実態把握は，改善すべき点を含んでいる。２年次においては，それらに検討を加えつつ実施し，その結果を１年次と比較し，考察を加えつつ基礎・基本の徹底，個に応じた指導に結びつける必要がある。

オ　学力向上事業の取組みについて保護者・地域へ広報してきたが，家庭・地域を巻き込んだ取組みには至っていない。２年次は，家庭・地域との連携を強め，その支援を受けた取組みにする必要がある。

カ　特定の指導方法や特設のドリル学習に頼りきるのではなく，日々の授業の質を向上させるため，授業技術や学級経営についての研修を充実させ，個々の教員の指導力を向上させなければならない。

(vi)　成果の普及方策

・　研究紀要の作成配付

(vii)　特色ある取組み

・　小・中学校９年間を通じて，無学年制で活用できる「マルチ習熟ワークシート」（国語，算数・数学）の作成